

DX 推進セミナーについて(報告)

総務委員会

会員企業にとって喫緊の課題である DX の推進について、標記セミナーを、令和6年2月8日(木)(21社39人参加)及び4月12日(金)(21社35人の参加)の2回にわたり長堀安田ビル(大阪市中央区)において開催した。

第1回セミナーは、マツ六(株)の森田事業企画室長による報告と(株)ハイロジックの辻阪情報企画室課長代理による報告が行われた。

森田氏は、DXの推進にあたって、目的をどこに置くかを定めることが重要である。マツ六(株)では生産性の向上を経営方針に掲げ、その目的に向けてDX化に取り組んでいる。まず、リスクリングや新しい仕事に取り組むため、無駄な時間をデジタルツールで効率化することに取り組んだ。このため当社では、Google Workspace、kintoneの活用、商品データベースのeBASEにより商品情報のみならず顧客の問合せ情報も全社で一元管理し共有化しているなどの報告が行われた。

次に、辻阪氏は、RPA(ロボテック・プロセス・オートメーション)とは何か。その導入事例、RPAの得意分野、苦手分野、RPAの苦手分野をAI技術で補うことなど、(株)ハイロジックの取組について報告された。なお、同社の中村社長から、「当時、社員の業務が逼迫しており、また社員アンケートにより、単純作業に多くの時間が割かれているとの結果も踏まえて、RPAを導入することになった。」とのRPA導入経緯についてのお話があった。

第2回セミナーは、(株)ハイロジックの小島情報企画室アシスタントマネージャーによる「電子帳簿保存法対応とペーパーレスFAX」について及び(株)水上の井上情報システム部マネージャーによる「個人情報保護関連」について報告が行われた。

小島氏は、電子帳簿関連では、自社内製で小さな保存システムを構築し、タイムスタンプは付与しない仕様で費用は余りかけず、たくさん保存可能にした。また、ペーパーレスでは、目に見える形で作業時間や費用削減の効果が現れたこと等の報告があった。

次に、井上氏は、セキュリティ対策は、法令順守と企業信頼のために不可欠で企業の生命線となっている。業界にいる組合員企業が相互に情報を共有して「競争」でなく「共創」の時代を築いて行くことが大事であるとのお話がありました。

また、各セミナーの報告後に参加各社による情報交換会を行いました。各社のデジタル化、DX推進にかかる現状や悩み、今後の進め方について活発な意見交換が交わされ、有意義なセミナーとなりました。今後も皆様のご要望に応じてこのような機会を設けていきたいと思っております。





